

町と機構が連携してリースハウス用農地を確保 ～県外出身の新規就農者を手厚く支援～

地域の状況

島根県中部に位置し、総面積の8割を森林が占める邑南町では、農業の収益性向上や担い手確保を図ることが課題だった。同町では中山間地域という地形を活かした新規就農者向けの研修を実施し、初めの一步から幅広く農業を学べる環境を整えている。

邑南町の取組

- ・邑南町では、平成12年度から担い手確保のため新規就農者育成の取組を開始し、研修中の生活や経営をサポートする仕組みとなるよう段階的に整備。新規就農者の定住にも重点をおき、地域おこし協力隊「おーなんアグサポ隊」として活動する研修生を募集。令和2年度からは野菜・花に加えてぶどうの専門研修を盛り込んでおり、ぶどうの産地化も目指すリニューアル版となっている。
- ・研修1年目は、他県から移住した研修生が多くの栽培農家とつながりを持って地元にも溶け込んでもらえるよう、野菜・花・ぶどうなど複数品目を学べる内容となっている。2年目以降は、専門コース（野菜・花又はぶどう）を選択。就農支援アドバイザー（町）等の指導を受けながら、研修ハウス等で自営に向けた技術が習得できる。
- ・ぶどうコースの場合は、就農時に、収穫が出来る状態の研修ハウスを農地とともにリースできる仕組みとなっている（国の産地生産基盤パワーアップ事業を活用したリースハウス事業）。
- ・研修終了後は、県の定住定着助成（半農半X支援事業）や国の農業次世代人材投資事業等により就農者の暮らしを継続サポート。また、田舎暮らしでも安定した生活基盤が得られるよう、農業収入だけに頼らない働き方を推進している。



【令和2年度のおーなんアグサポ隊】



【研修ハウス】

研修実績（令和2年度版～）

・令和2年度：5名 ・令和3年度（募集中）：4名※聞き取り時点

町と農地バンクの連携取組

- ・町及び農業委員会の担当者は、日頃の農家訪問等により、ハウス建設が可能な農地情報を地図に整理。地主が貸し付けを承諾した後、農地バンクとの契約手続きがスムーズに移行できるよう 農地情報を農地バンクの農地集積相談員（以下「機構担当者」）へタイムリーに共有。現地確認なども機構担当者とともに実施。
- ・機構担当者は、町及び農業委員会の担当者とのチームワークのなかで効率よく契約手続きを進めるなど新規就農者向け農地を順調に確保。

研修生の声

「一人親だが、邑南町は仕事と子育ての両立にとっても理解があり手厚く支えてもらいながら農業を学ぶことができるのでありがたい。」（福岡県出身）
「1ターンUターン向け就農フェアに出席し各地の研修圃場を訪問したが、邑南町のぶどうのリースハウス制度は新しい取組だと思い受講をきめた。」（広島県出身）
「研修終了後に支援が打ち切られると自立就農は難しいと思っていたが、邑南町では就農後も2年間支援があるので安心して応募した。」（大阪府出身）
「複数の栽培品目が学べるので就農後はぶどうと野菜の組み合わせにより高収益を目指したい。」（兵庫県出身）